



TT未来遺産運動基本計画

平成27年3月

兵庫県淡河川山田川土地改良区
東播用水土地改良区

目次

はじめに	1
1 基本計画の概要	2
(1) TT未来遺産運動	2
(2) 基本計画の目的	4
(3) 基本計画の位置づけ	4
(4) 計画期間	4
(5) 基本計画の見直し	4
2 淡山疏水・東播用水を取り巻く状況と TT未来遺産運動	5
(1) 地域の特色	5
(2) 農業・農家・土地改良区の状況	7
(3) 淡山疏水・東播用水の多様な機能	8
3 TT未来遺産運動の推進	10
(1) 基本方向及び推進方策	10
(2) 活動事例	13
(3) 運動の展開イメージ	13
4 推進体制	14
(1) 運動組織	14
(2) 参加団体	15
5 運動創設	16
6 実施に向けた課題	17
参考	
TT未来遺産運動基本計画策定の経過	18

はじめに

兵庫県淡河川山田川土地改良区（以下「淡山土地改良区」という。）と東播用土地改良区は、平成24年11月に合併契約を締結（平成28年6月知事認可を目処とする。）しました。その合併協議において、両土地改良区は、淡山疏水を継承する東播用水及びこれに関係する農業並びに地域を含んだ18の将来象を描き、その実現に向けた「TT 未来遺産運動構想」を発案しました。

そしてこの度、「淡山疏水125年の歴史と東播用水の多様な機能を生かし、新たな東播用水と農業並びに地域を創り上げ、100年後の後継者に遺産として継承する。」を基本理念とした、「TT 未来遺産運動基本計画」を策定しました。

この基本計画は、合併後の東播用土地改良区と地域の人たちとが手を結んでTT 未来遺産運動を計画的に推進するための基本方向を定めたものです。

当面は、本年1月に開館しました「淡山疏水・東播用水博物館」の運営とともに、TT 未来遺産フォーラムや淡山疏水・東播用水ミニツアー等を行い、多くの人たちにTT 未来遺産運動を知っていただきます。また、本運動に関係する各種のイベント等に積極的に参加し、様々な団体・個人と手を結び、本運動における各種の活動の主体となる連携組織づくりを進めます。

平成28年度から本格的に運動を開始する計画です。淡山土地改良区及び東播用土地改良区の理事・役員を始めとする組合員の皆様、各種団体の皆様、そして地域の皆様には、積極的にTT 未来遺産運動に参加し、皆で力を合わせ、東播用水を軸とした活力ある農業と魅力ある地域づくりを進めていただきますよう、お願い申し上げます。

最後となりましたが、基本計画策定にあたり各専門の分野から指導・助言をいただきました「TT 未来遺産運動計画検討委員会」の委員各位には、厚くお礼申し上げます。

平成27年3月

兵庫県淡河川山田川土地改良区 理事長 大村 哲郎
東播用土地改良区 理事長 大村伊三夫

1 基本計画の概要

(1) TT未来遺産運動

淡河川疏水と山田川疏水（以下、「淡山疏水」）は、水の確保が困難であった“いなみ野台地”に水を引くため、明治中期から大正にかけて開かれました。

淡山疏水により、“いなみ野台地”では新田開発が進められ、綿花栽培から水稻栽培に切り替えられ、現在の農業の姿が創り上げられました。また、淡山疏水は、日本一の密度を誇るため池群とその水路網とを通じて、“いなみ野台地”固有の自然体系、景観、文化の創出に大きく関わってきました。

東播用水は、昭和中期から平成初期にかけて建設され、3箇所のダムを水源として、淡山疏水の地域を包含して北神戸地域までの農業用水を補給する近代的広域農業水利システムです。また、周辺市町を含んだ地域の水道用水を供給しています。

この度、淡山疏水を管理する兵庫県淡河川山田川土地改良区（以下、「淡山土地改良区」）と東播用水の農業用施設を管理する東播用水土地改良区とは、両土地改良区を合併し、淡山疏水の水と施設そして歴史を東播用水土地改良区が継承することを取り決めました。

これを契機に、両土地改良区は新たな東播用水の進むべき方向を検討し、東播用水とその地域の農業、さらには東播用水の多面的な機能を享受する地域の自然や文化などについて、あるべき未来の姿を描きました。

TT未来遺産運動とは

淡山土地改良区と東播用水土地改良区が描いた東播用水と地域と農業の未来像の実現に向け、東播用水土地改良区と地域が連携して取り組む運動です。

125年の歴史を経て創り上げられた淡山疏水を遺産として引き継ぎ、これとともに東播用水の多様な機能を生かし、今後の100年間で創り上げる東播用水とその農業と地域を新たな遺産とし、未来の世代に継承することを目標とします。

なお、「TT」は淡山疏水と東播用水を表しています。

また、「未来遺産運動」は、TT未来遺産運動の趣旨が、日本ユネスコ協会が提唱している「未来遺産運動」と同じであることから、その運動に同調することとし、その運動名を使用しています。

【参 考】

淡山疏水

- ・ 建設期間 明治21年～大正8年
- ・ 受益地域
神戸市（西区）明石市、三木市、稲美町
- ・ 受益面積 2,500ヘクタール
- ・ 主要施設 頭首工2箇所（内1箇所は廃止済）
水路 90キロメートル
ため池 40箇所（内17箇所廃止済）



東播用水

- ・ 建設期間 昭和45年～平成8年
- ・ 受益地域 神戸市（北区、西区）明石市、加古川市
三木市、稲美町
- ・ 受益面積 7,390ヘクタール
- ・ 主要施設 ダム3箇所
水路 281キロメートル



淡山土地改良区と東播用水土地改良区

土地改良区とは、農業用のダムや水路などを建設したり管理したりするため、知事の認可を受けて関係農家がつくる団体です。

淡山疏水と東播用水とは、淡山土地改良区と東播用水土地改良区とがあります。2016年（平成28）に合併し、新しい「東播用水土地改良区」となります。

淡山土地改良区

1886年（明治19）3月6日 加古郡印南新村外二十箇村関係水利土功会設立
加古郡母里村外4箇村普通水利組合に改組、
兵庫県淡河川山田川普通水利組合に改組

1952年（昭和27）4月1日 淡山土地改良区に改組

組合員数 4,995人

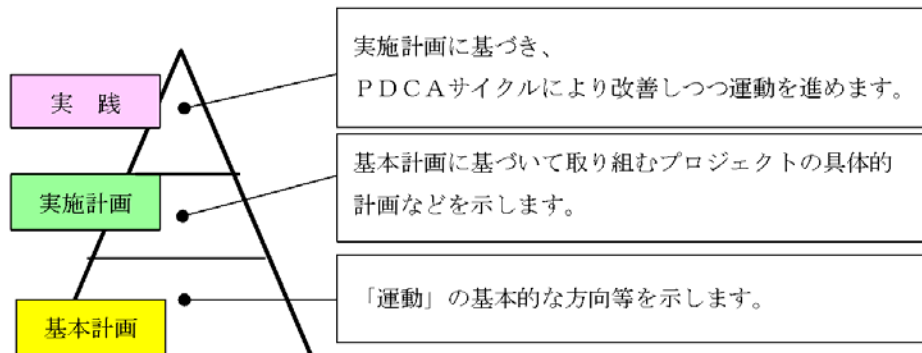
東播用水土地改良区

1972年（昭和47）2月8日 設立

組合員数 12,553人

(2) 基本計画の目的

TT未来遺産運動の基本方向を示してこれを計画的に推進するため、TT未来遺産運動基本計画（以下、「基本計画」）を策定しました。なお、運動展開にあつては、具体的な行動計画を示す「実施計画」を策定します。



(3) 基本計画の位置づけ

① 東播用水土地改良区の取り組み指針

東播用水土地改良区が自主的にTT未来遺産運動に取り組むためのものです。

② 地域との連携啓発提案書

東播用水の未来像は地域と密接に関係することから、地域の非農家の人々への啓発資料とします。このため、基本計画策定にあたっては21世紀兵庫県長期ビジョン、受益地域市町の総合計画などとの整合に配慮しています。

(4) 計画期間

計画期間は、2014年（平成26）から100年間

100年先の将来象を描いたことから、計画期間は100年とします。

基本計画策定段階から取り組みを開始することとしており、計画期間は2014年から2113年までとなります。

(5) 基本計画の見直し

東播用水土地改良区理事の任期（4年）毎に見直しを検討し、必要に応じて変更することとします。なお、検討にあたっては県、関係市町、住民、識者などから助言を求めることとします。

2 淡山疏水・東播用水を取り巻く状況とTT 未来遺産運動

(1) 地域の特徴

① 多様な自然・文化

神戸市、明石市、加古川市、三木市、稲美町の4市1町に広がる受益地域には、多種多様な自然や文化があります。

・台地に広がるため池群 ・入母屋家屋のある中山間的集落・農村歌舞伎等



ため池群
(いなみ野台地)



棚田と入母屋造の家
(神戸市北区)



農村歌舞伎
(神戸市北区淡河町)

【TT 未来遺産運動における取組方向】

多様な自然や文化と農産物と組み合わせ、地域資源として生かし、農業振興と地域の魅力向上に取り組みます。

② 道路網・交流施設の充実

地区及びその周辺は、中国自動車道、山陽自動車道、神戸淡路鳴門自動車道、第2神明道路などの自動車道とこれに繋がる国県道などからなる道路網が整備されています。

また、広域公園、文化施設、農業体験施設などの交流施設も整っています。



主要幹線道路網



東播用水地域



山田錦の里
(三木市吉川町)



楽農生活センター
(神戸西区神出町)

【TT 未来遺産運動における取組方向】

整備された交通網や交流施設を生かし、東播用水地域への入り込み客の増加に取り組み、農産物販売の促進や地域の活性化を図ります。

③ 農家と非農家の混住

農業集落周辺の新興住宅地の進展、集落内における非農家の増加或いは農家の減少などにより、農家と非農家の混住化が進行し、集落の活動や農業用施設の維持管理を困難にしています。

混住率の変化 (市町における農家の占める割合の変化)

	平成 2 年			平成 22 年		
	総戸数	農家戸数	混住率	総戸数	農家戸数	混住率
明石市	89,365	1,781	2.0	125,634	1,188	1.0
三木市	21,490	3,829	17.8	31,388	3,054	9.2
稲美町	7,863	2,475	31.5	11,463	1,868	16.2

※神戸市及び加古川市は、東播用水受益地が極めて限定的であるため、事例から除外

【TT 未来遺産運動における取組方向】

東播用水の機能を共に享受する農家と非農家の連携を促進し、非農家も参加する水路の管理体制整備や地産地消などによる農産物の販売促進につなげます。

④ 多様な地域活動

いなみ野ため池ミュージアムや自治体単位でのまちづくりなど、様々な団体により多くの活動がなされています。



いなみ野ため池ミュージアム

イメージ図



地域活動事例

【TT 未来遺産運動における取組方向】

TT 未来遺産運動と地域の団体とが関連する活動分野において連携し、相互に活動効果を高めつつ運動を進めます。

(2) 農業・農家・土地改良区の状況

① 多彩な農作物とブランド化

東播用水地域は、4市1町にわたる広い地域であり、山田錦、六条麦、キャベツ、イチゴ、ぶどう、なしなどの特色ある農産物が各地区で生産されています。

また、ワイン製造、ジャム類の加工、観光農園など、6次産業化も進んでいます。



【TT 未来遺産運動における取組方向】

東播用水地域内の特色ある農産物及び農産加工物と特色ある自然・景観・文化などを結びつけ、農産物と地域の魅力を一体的にPRし、全体の評価を高めます。

② 農業従事者の高齢化

農業従事者の高齢化及び農業後継者不足により、集落管理の低下に悩む集落もあります。

【TT 未来遺産運動における取組方向】

東播用水ブランドの確立などによる農業振興を図るとともに、ボランティア活動などによる集落管理を促進します。

③ 東播用水土地改良区と地域の連携

合併後の東播用水土地改良区において、淡山疏水の歴史的価値の保全や淡山疏水地域の非農家の人たちとの連携に取り組む必要があります。また、水源地域とも引き続き連携していく必要があります。

【TT 未来遺産運動における取組方向】

TT 未来遺産運動の環を広げることにより、東播用水土地改良区と地域との連携を促進します。

(3) 淡山疏水・東播用水の多様な機能

① 多様な機能

受益地域の隅々まで張り巡らされた水路や多くのため池は、かんがい用水と地域用水として多くの機能を持っています。

【多面的な機能】

- かんがい用水 干ばつ防止、用水管理労力軽減、乾田化促進、冬季用水
農地開発、水質浄化（希釈）
- 地域用水 水辺の生態系・景観の形成、文化の醸成、保健休養、防火用
地域排水

【TT 未来遺産運動における取組方向】

東播用水の多面的な機能が円滑に発揮され、その成果を農家と非農家が共に享受するよう、連携して用水及び施設の保全や有効活用を図ります。

② 評価

淡山疏水及び東播用水は、歴史的価値や地域振興への貢献などの観点から、次のとおり様々な団体から評価を受けています。

登録・表彰制度	内 容
疏水百選	淡山疏水、東播用水
	農林水産省 平成18年
	4つの視点（農業・地域の振興、歴史・伝統・文化、環境・景観、地域コミュニティの形成）を基に、全国の疏水から110施設の一つとして選定されている。
近代化産業遺産	淡河頭首工、山田池、練部屋分水所、隧道等
	経済産業省 平成20年
	幕末・明治維新から戦前にかけての日本の産業近代化に貢献した産業遺産として選定され、地域活性化のために有効活用する観点から「近代化産業遺産ストーリー」が作成されている。
兵庫県近代化遺産	淡山疏水システム
	兵庫県・市町教育委員会 平成18年
	文化庁補助事業「近代化遺産総合調査に基づき刊行した刊行された「兵庫県の近代化遺産」において「特に重要な物件」と評価されている。
土木学会推奨遺産	御坂サイフォン、平木橋（移設後）
	土木学会 御坂サイフォン平成17年 平木橋 平成21年
	土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木建造物の保存に資することを目的として選出されている。なお、推薦および一般公募により、年間20件程度を選出される。
かんがい施設遺産	淡山疏水
	国際かんがい排水委員会 平成26年
	かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資することを目的として、建設から100年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したもの、卓越した技術により建設されたもの等、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設として登録されている。

3 TT未来遺産運動の推進

(1) 基本方向及び推進方策

淡山疏水及び東播用水またその地域の状況を踏まえて、淡山土地改良区と東播用水土地改良区が描いた東播用水・農業・地域の将来像（18）は次のとおりです。

これらの実現を目指すTT未来遺産運動の基本方向（4）と各基本方向に進めるための推進方策（10）を次のとおり定め、運動の概念を体系化しました。

なお、基本方向と推進方策については、地域との連携により運動を展開することができるよう、兵庫県長期ビジョン及び東播用水地域市町の総合計画を参考にしています。

【東播用水・農業・地域の将来像】

- 1 豊かな用水が確保され高度な水管理が行われている。
- 2 優良な受益農地が確保されている。
- 3 水路の維持管理に住民が参加している。
- 4 地域と連携した防災減災体制が構築されている。
- 5 安全安心で美味しい農作物を作る水質が保全されている。
- 6 6次産業化が進んでいる。
- 7 地産地消が進んでいる。
- 8 多面的機能が発揮され、地域資源として活用されている。
- 9 水にまつわる伝統行事などが活用されている。
- 10 文化的景観が活用されている。
- 11 多くの人が東播用水地域を訪れる。
- 12 交流を支える地域活動が活発である。
- 13 淡山疏水・東播用水の関係文書が保存・展示されている。
- 14 歴史的かんがい施設が現地で保存・展示されている。
- 15 教材や資料が充実している。
- 16 東播用水や地域などに関する研究が広がり深まっている。
- 17 小中高の地域学習カリキュラムが作成されている。
- 18 多様な学習活動がなされている。

【TT 未来遺産運動の体系（基本方向・推進方策・目指す姿）】

基本方向 1 東播用水システムを存続発展させる。

推進方策	目指す姿(将来像)
① 農業基盤の保全	1 2
② 維持管理への住民参加	3 4

基本方向 2 農業と地域をステップアップさせる。

推進方策	目指す姿(将来像)
③ 農業の振興	5 6 7
④ 東播用水の多面的機能の発揮	8
⑤ 歴史・自然・文化などの活用	9 10
⑥ 交流及び地域活動の拡大	11 12

基本方向 3 淡山疏水・東播用水の歴史を活用する。

推進方策	目指す姿(将来像)
⑦ 史料の保存・展示	13 14
⑧ 読み物などの制作	15

基本方向 4 人を育てる。

推進方策	目指す姿(将来像)
⑨ 淡山疏水・東播用水の研究促進	16
⑩ 学習機会の充実	17 18



① 東播用水システムを存続発展させる。

農業と地域の営みに役割を果たしている東播用水の機能を維持発展させます。

推進方策 ①農業基盤の保全

農地とかんがい施設とを一体的に保全する。

②維持管理への住民参加

地域と密接に関係する支線水路について、土地改良区と地域とで維持管理する。

東播用水と地域の関係模式図



② 農業と地域をステップアップさせる。

東播用水の機能及び東播用水土地改良区の組織力など活用して、農業振興と地域の魅力向上を一体的に進めます。また、このことにより東播用水の機能発揮を地域ぐるみで支える体制づくりを進めます。

推進方策 ①農業の振興

あらゆる機会を利用して東播用水供給の成果である農産物をPRする。

②地域の歴史・自然・文化などの活用

農産物とともに地域の魅力ある地域資源をPRする。

③東播用水の多面的機能の発揮

水辺空間の形成など、地域の魅力を高める東播用水の多面的機能を積極的に発揮させ活用する。

④交流及び地域活動の拡充

地域の魅力の大きな要因である人々の活力を高める。

③ 淡山疏水・東播用水の歴史を活用する。

江戸時代に始まる淡山疏水構想から今日までの歴史、東播用水の始まりから今後創り上げて行く歴史、これらを保存し東播用水や地域の宝として活用します。

推進方策 ①史料の保存・展示

歴史的なかんがい施設や文書を保存展示する。

②読み物などの制作

記録誌の編纂や歴史を紹介する読み物編集、DVD制作などを行う。

④ 人を育てる。

東播用水と地域を支えていく後継者を育成します。

推進方策 ①淡山疏水・東播用水の研究促進

淡山疏水及び東播用水への関心を高めるとともに正しい知識を広めるため、これらに関する研究を促進する。

②学習機会の充実

児童生徒の地域学習支援を中心に、東播用水と地域の後継者を育成する。

(2) 活動事例

推進方策ごとの活動事例は、別表「活動事例一覧表」のとおりです。

本事例を参考として実施計画を策定し、取り組んでいきます。

(本編には別表の添付を省略します。)

(3) 運動の展開イメージ

TT未来遺産運動の展開イメージは、目指す姿を目標に、基本方向1及び基本方向2については3つの取組を段階的あるいは並行して進め、基本方向3及び基本方向4については一体的に運動期間を通じて取り組むものです。

そして、東播用水と力強い農業と魅力ある地域とを遺産として、100年後の世代に継承します。

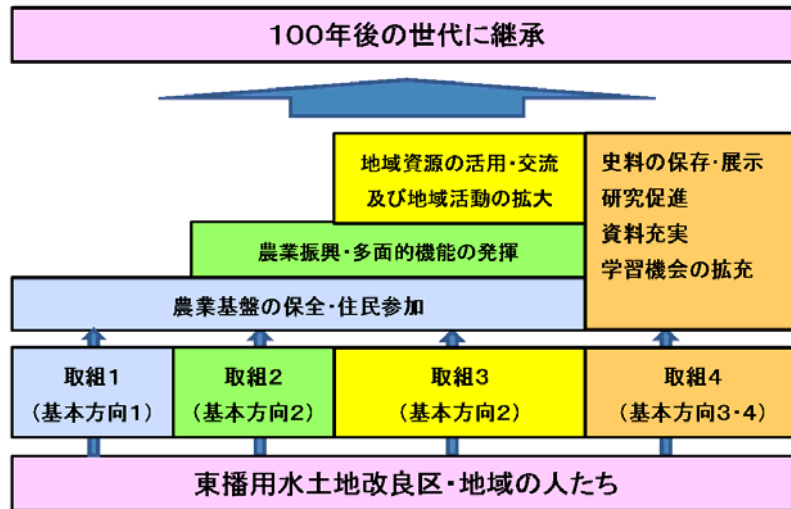
取組1 東播用水土地改良区が、「水、施設、土地」を保全し、地域の人たちがこれに協力する。

取組2 東播用水の農業生産性向上機能と景観形成、生態系保全などの機能を高め、有効に発揮させる。

取組3 さらに、農産物と様々な地域資源を連携させて、東播用水地域の農産物と地域の魅力を高める。

取組4 歴史の活用と人の育成とを一体的に進める。

運動展開イメージ図



運動展開のコンセプト

- 1 百年後の姿を思い浮かべ活動する
- 2 運動は目標に向けた一手法、活動を遊ぶ
- 3 活動はできるところから
- 4 始めたらやめない
- 5 オンリーワンの歴史を生かす
- 6 歴史資源、地域資源の活用は幅広く
- 7 地域には潤いを、農家には金を！

4 推進体制

(1) 運動組織

運動を円滑に進めるため、次表「組織案」に示す組織を設置します。

「東播用水」に関する活動により各団体と地域全体を高めていくことを目的とする「連携組織」とこれを支える「支援組織」といったイメージです。

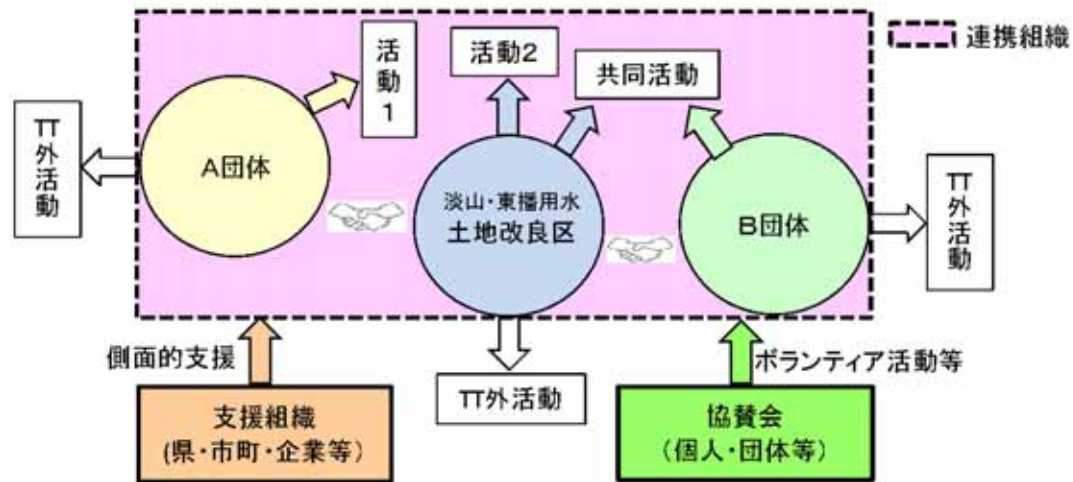
個人の参加者のためには、「協賛会」を設置します。

運動の初期段階では組織未編成のため、東播用水土地改良区が県及び関係市町などの協力を得て運動を啓発し参加団体等を募ります。

組織案

1 連携組織	2 協賛会	3 支援組織
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動主体 ・ 東播用水土地改良区と運動参加団体との連携組織 ・ 各構成団体が各自のプロジェクトを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動にボランティア参加する個人等で構成 ・ 連携組織事務局に設置 	運動へのアドバイスなどを行う側面支援組織
(1) 構成団体例 東播用水土地改良区 水利組合・営農組合・自治会・消費者グループ・自然保全活動グループ・歴史研究会等		(1) 構成団体例 県及び関係市町・農協・商工会・観光協会・企業・研究機関等
(2) 事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 初期段階、東播用水土地改良区 ・ 将来、主たる参加団体と分担 		(2) 事務局 <ul style="list-style-type: none"> ・ 加古川流域土地改良事務所

組織のイメージ図



(2) 参加団体

連携組織又は支援組織に参加が期待される団体とその役割は、次表「参加組織等とその役割」のとおりです。

参加組織等とその役割

活動組織等	役割
淡山・東播用水土地改良区	各種プロジェクトの実施
	推進体制運営（取りまとめ、運動啓発等）
活動団体	団体間連携
土地改良区、水利組合等	淡山・東播用水土地改良区への連携（支援）
自治会等	水路管理、多面的機能の活用
	かんがい施設を含む地域ぐるみ防災体制の構築
	地域の魅力づくり
農協・営農組合	TTブランド化の推進 （淡山疏水・東播用水と組み合わせた農産物のPR等）
	地域と連携した生産・加工・流通の拡大 （地産地消、6次産業化の推進等）
観光協会	淡山疏水・東播用水地域のPR
小学校	淡山疏水・東播用水を活用した地域学習の実施
企業	各種プロジェクトの実施
	6次産業化における連携
	ボランティア活動参加

活動組織等	役割
研究機関	淡山疏水・東播用水に関する研究
	TT 未来遺産運動への助言
国 (ダム管理所・農業水利事業所)	基幹施設の他目的利用許可
	東播用水事業の PR
県・関係市町	住民への啓発
	プロジェクトへの支援（助言・連携）
	プロジェクト事業補助
住 民	ボランティア活動参加
	活動団体加入、活動団体設立

5 運動創設

運動創設は、平成28年3月までを目標とし、概ね次の「運動創設の工程」及び「工程表」により進めます。

この間、TT未来遺産運動計画検討委員会の助言を得ます。

【運動創設の工程】

- 1 淡山土地改良区及び東播用水土地改良区が県及び関係市町に運動推進の協力を要請する。
- 2 参加（活動主体又は支援者）を求めたい各種団体に運動を呼びかける。
- 3 参加者の意見を踏まえて実施計画を策定する。
- 4 啓発活動を行い、個人も対象として参加者の拡大を図る。
- 5 加者による組織を編成し、推進体制を整える。
- 6 試験的にプロジェクトを実施する。
- 7 本格的展開に向け基本計画、実施計画、実際の推進体制などの点検修正を行う。

【工程表】



6 実施に向けた課題

現時点において確認される主な課題は次のとおりです。

今後、各課題について個々に対応方針を決定し、TT未来遺産運動を進めます。

(1) 運営に関するもの

- ① 運動推進費の財源確保
- ② 運動の定期的な点検 基本方向等の確認、組織の点検など
- ③ 流域全体に向けた取組み 東条川疏水ネットワーク博物館との連携など
- ④ ロゴ、キャッチコピーの制作
- ⑤ GIS活用
- ⑥ 山田池の処分又は活用
- ⑦ 北部地域の関心向上 人びとをため池に近づける条件整備など

(2) 展示施設に関するもの

- ① 見せる工夫 看板設置等、人が集まる魅力の創出、児童生徒の感動を高める工夫
- ② 文化財指定（注目度を高める）

(3) 博物館に関するもの

- ① 企画・運営 博物館の運営・管理体制の整備
 - ・改良区職員配置
 - ・地域の人々などの参画と学芸員の配置児童の興味を引く見せ方の工夫
体験学習等の開催（農業、自然など）
- ② 館内整備 展示内容の再検討、資料の整理（資料収納と台帳整備）
談話室の改善

(4) 淡山疏水史誌の編纂

淡山疏水の歴史について、一つの資料にまとめる。

参 考

TT 未来遺産運動基本計画策定の経過

1 TT 未来遺産運動計画検討委員会委員名簿

(五十音順)

氏 名	所属・役職	備 考
あおき みのる 青木 稔	神戸市立岩岡小学校校長	
あべ ゆうきち 安部 優吉	兵庫県土地改良事業団体連合会副会長	委員長代理 (第3回迄)
おおぶち けんじ 大淵 研二	兵庫県教育委員会事務局 文化財課副課長兼文化財係長	(第3回迄)
すぎもと しゅういちろう 杉本 修一郎	兵庫県土地改良事業団体連合会副会長	委員長代理 (第4回から)
たなか れいこ 田中 玲子	稲美町環境基本計画推進委員会委員	
なかつか かな 中塚 華奈	NPO 法人 食と農の研究所理事	
まつもと あやこ 松本 文子	神戸大学農学部助教	
みなみの たけし 南埜 猛	兵庫教育大学大学院教授	委員長
やました しろう 山下 史朗	兵庫県教育委員会事務局 文化財課副課長兼班長	(第4回から)
よねつ よしずみ 米津 良純	兵庫県東播磨県民局地域振興参事参与	

2 TT未来遺産運動計画検討委員会の検討経過（平成26年度までの部分）

第1回検討委員会（平成25年6月14日）

- ・現地調査
- ・TT未来遺産運動の構想

第2回検討委員会（平成25年9月11日）

- ・TT未来遺産運動計画の骨子

第3回検討委員会（平成26年1月17日）

- ・TT未来遺産運動計画の骨子

第4回検討委員会（平成26年6月27日）

- ・平成26年度運動創設活動計画
- ・淡山疏水・東播用水博物館計画

第5回検討委員会（平成27年1月23日）

- ・淡山疏水・東播用水博物館点検

第6回検討委員会（平成27年2月24日）

- ・TT未来遺産運動基本計画
- ・TT未来遺産フォーラム計画

別表

活動事例一覧表

基本方向	推進方策	めざす姿	実現に向けたプロジェクト事例(赤字:先行プロジェクト案)		摘要
			東播用水土地改良区単独	連携(改良区、農家、住民、企業等)	
1 東播用水システムを存続発展させる	1 農業基盤の保全	1 豊かな用水が確保され高度な水管理が行われている	1 用水管理研究 (1)営農形態に応じた水管理 (2)生態系に配慮した水管理 2 源流ミニツアー(継続実施)	1 水源地里地里山応援隊 (住民、消費者、企業等) (1)水源地の田畑や雑木林等の保全 (2)自然体験学習 (3)里山を楽しむ 	・水源 篠山川(川代ダム) 東条川(大川瀬ダム) 淡河川(淡河頭首工) 山田川(吞吐ダム) ・平成25年度源流ミニツアーパンフレット(別紙参照)
		2 優良な受益農地が確保されている	3 農地保全促進キャンペーン (1)農地保全を考える集い (2)機関紙(東播用水だより)等による啓発	2 農地保全実践活動(農家) (1)農地転用自主規制 (2)耕作放棄田壊滅運動	・関係市町全体農地面積の60% ・年々減少
	2 維持管理への住民参加	3 水路の維持管理に住民が参加している	4 東播用水応援団 ・改良区組合員やその家族で構成する応援団を設置 (1)老若男女による土地改良区運営への助言 (2)イベントの企画実施 5 東播用水土地改良区イメージアップ大作戦 ・東播用水土地改良区支援を広げる (1)積極的広報活動 (2)地域活動参加		・明治用水土地改良区では婦人部を設置
		4 地域と連携した防災減災体制が構築されている	  溢流する合流幹線水路(西区神出町) 溢流寸前の合流幹線水路(西区神出町)	3 地域まるごと自主防災組織の確立(改良区、自治会、行政等) ・当面は、東播用水地区水路情報連絡協力会の拡充として展開	・東南海地震発生を危惧 ・ゲリラ豪雨の多発化 ・東播用水地区水路情報連絡協力会:H18~

基本方向	推進方策	めざす姿	実現に向けたプロジェクト事例(赤字:先行プロジェクト案)		摘要
			東播用水土地改良区単独	連携(改良区、農家、住民、企業等)	
2 農業と地域をステップアップさせる	3 農業振興	5 安全安心で美味しい農作物をつくる水質が保全されている	 安全安心な米づくり	4 水質保全大作戦 (改良区、農家、自治会、企業等) (1)定期的水質検査 (2)水路、ため池の環境保全 (3)減農薬及び適正施肥農法	・消費者の安全安心志向が高い ・地域環境保全活動:H18～
		6 6次産業化が進んでいる(農林漁業生産と加工・販売の一体化や地域資源を活用した新たな産業の創出など)	(再掲)東播用水土地改良区イメージアップ大作戦 ・東播用水地域のPRと一体 6 東播用水農家ロコミ作戦 ・受益農家約11,000戸による産物のロコミPR	5 東播用水ブランド推進プロジェクト (改良区、農家、営農組合、加工グループ、企業等) (1)特産物生産 (2)加工品開発 (3)観光農園拡充 (4)東播用水地域のPR (「交流と地域活動の拡大」参照)	・生産、加工、観光が一体となった「ぶどう園」等がある  地場産弁当
		7 地産地消が進んでいる	 農産物直販(稲美町)	6 東播用水地産地消の会 (改良区、農家、消費者、婦人会、企業等) (1)地産地消フォーラム (2)地産地消グループづくり (3)地場食材料理教室	・直販施設は増加している
	5 東播用水の多面的機能の発揮	8 多面的機能が発揮され、地域資源として活用されている	7 多面的機能啓発プロジェクト (1)多面的機能の啓発 (2)多面的機能に配慮した水管理 (3)多面的機能に配慮した施設整備	10 多面的機能活用プロジェクト(自治会、NPO、企業等) (1)水辺空間の創造・保全 (2)ビオトープ水路等の設置・管理 (3)洗い場、防火用水としての活用 (4)海への栄養補給(ため池かい掘り) (5)該当施設管理	・地区内各地で取組み事例が多数ある
	4 歴史・自然・文化などの活用	9 水にまつわる伝統行事などが活用されている	 天満大池祭事(稲美町)	7 伝統行事活性化プロジェクト (改良区、自治会、氏子、PTA等) (1)伝統行事等の保存復活 (2)伝承話の発掘と記録	・伝統行事等調査中
		10 文化的景観が活用されている		8 ため池群の保全プロジェクト(自治会、水利組合、行政等) ・いなみ野ため池ミュージアム 9 棚田のある景観保全プロジェクト ・北部中山間的地域	・いなみ野ため池群は「重要文化的景観」未申請
	6 交流及び地域活動の拡大	11 多くの人が東播用水地域を訪れる	(再掲)水利施設常設展示(かんがい使用施設) (再掲)東播用水農家ロコミ作戦  よかたん温泉(三木市山田錦の館)	11 東播用水回遊プロジェクト (改良区、観光協会、企業等) (1)各種交流施設及び交流団体の連携 (2)PR誌等の作成 ・東播用水知得ガイドブック ・東播用水物語(季刊誌)等 (3)交流イベント実施	・連携組織案 「東播用水地域交流拠点協議会(仮称)」 改良区、公共集客施設、観光協会、営農組合 企業、神社等
		12 交流を支える地域活動が活発である		12 地域活動活性化プロジェクト(TT未来遺産運動実行委員会) (1)いなみ野ため池ミュージアム等との連携 (2)いなみ野ため池ミュージアムの地区拡大 ・神戸市西区地域のため池群 (3)地域活動団体の育成	

基本方向	推進方策	めざす姿	実現に向けたプロジェクト事例(赤字:先行プロジェクト案)		摘要
			東播用水土地改良区単独	連携(改良区、農家、住民、企業等)	
3 淡山疏水・東播用水の歴史を活用する	7史料の保存・展示	13 淡山疏水・東播用水の関係文書が保存・展示されている	8 淡山疏水・東播用水博物館 (1) 淡山土地改良区所蔵史料等の保管展示 (2) 東播用水関係資料収集、保管、展示、研究(将来構想) (3) 「語り部」を設置(歴史の伝承、改良区広報担当)	13 淡山疏水・東播用水学習会 (改良区、住民、企業等) (1) 巡回展示 (淡山疏水資料の公民館等における展示等) (2) 歴史的水利施設の保全展示(用途廃止施設) (3) 淡山疏水・東播用水ミニツアー 14 山田池等活用キャンペーン(改良区、住民、企業等) ・多様な主体による用途廃止施設の利活用を促進 (1) 山田池ハイキング (2) 山田池彫刻展 (3) 旧山田疏水レンガ積水路の探検	・淡山史料保管室及び展示室は南部管理所を利用(別紙「資料保管室見取り図」)  九鬼家に関する一件書類(大正7年)
		14 歴史的かんがい施設が現地で保存・展示されている	9 水利施設常設展示(かんがい使用施設) (1) 歴史的水利施設及び主要施設周辺の整備 ・かんがい使用中施設周辺の遊歩道設置等 (美しい農村再生支援事業の採択申請) (2) 施設見学会  改修前の御坂サイフォン橋(三木市)	 山田池  山田疏水レンガ積隧道	・かんがい使用施設 淡河頭首工、淡河土壘水路、御坂サイホン、練部屋分水 合流幹線隧道等 ・ダム見学会は既に継続実施中 「東播用水と緑の交流実行委員会」 構成: 東播用水土地改良区、国、県、関係市町 ・平成25年度呑吐ダム見学会パンフレット(別紙参照) ・山田池保全活用はシンボルプロジェクト候補 ・山田池施設及びダム敷地の処分に制約なし
	8読み物などの制作	15 教材や資料が充実している	10 ジオラマ製作	15 教材製作(改良区、市民グループ、PTA、企業等)	
4 人を育てる	9淡山疏水東播用水の研究促進	16 東播用水や地域などに関する研究が広がり深まっている	(再掲) 淡山疏水・東播用水博物館	16 研究支援プロジェクト(土地改良区、NPO、企業等) (1) 研究・学習会等の開催 (2) 研究支援 ・特定課題研究費助成 ・市民論文コンクール 等	
	10学習機会の拡充	17 小中高の地域学習カリキュラムが作成されている	11 東播用水学習プロジェクト (1) 校外学習の受け入れ (2) 出前講座の実施  御坂サイホン(三木市)  釜谷池(明石市)	17 地域学習のプログラム化(小中学校) 18 各種学習会開催(改良区、市民グループ、PTA、企業等) (1) 講座(歴史、文化等)開講 (2) 自然体験学習 (3) 農業体験学習 (4) 環境学習 ・水循環システム ・小水力発電 (5) 地域活動体験	・現在年間20回程度実施中 (ただし県土地改良事務所主催)